

# 「学校応援団」の概要について

## 1 趣旨

家庭を含む地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員の子供と向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び家庭・地域の教育力の向上を図る。

## 2 内容

### (1) 「学校応援団」とは

- 学校における学習活動、安全確保、環境整備などについて、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織

### (2) 「学校応援コーディネーター」とは

- 各学校において教職員以外の者で、学校と家庭、地域が連携した様々な活動（「学校応援団」の活動）の連絡・調整をする者
- 県では、「学校応援団」の組織的・継続的な活動を目指すため、「学校応援コーディネーター」の複数配置を推奨している。
- 「学校応援コーディネーター」の担い手  
(例) P T A 関係者・学校評議員、学校運営協議会等関係者  
「おやじの会」等の学校支援グループの関係者  
町内会長・区長・自治会長・民生委員・児童委員
- 「学校応援コーディネーター」の役割  
(例) ・「学校応援団」の活動に参画する地域の様々な団体・組織等との連絡・調整  
・地域や学校の実情に応じた「学校応援団」の活動の企画・立案  
※県が例年実施している「『学校応援団』の推進に係る調査」においては、「『学校応援団』が組織されており、学校と『学校応援団』との調整役（教職員以外）がいる」学校を「『学校応援団』が組織された学校」と定義している。

### (3) 「学校応援団」の主な活動内容

- 学習活動への支援・・・「学習支援ボランティア」として、児童生徒の学習活動を支援
- 安心・安全確保への支援・・・児童生徒の登下校時などの安全確保を支援
- 学校環境整備への支援・・・花壇の整備を行うなど、教育活動の環境整備を支援

#### 【成果】

- ・子供の多様な体験や経験が増加し、子供の学習意欲が向上した。
- ・学校教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解が深まり、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。

#### 【課題】

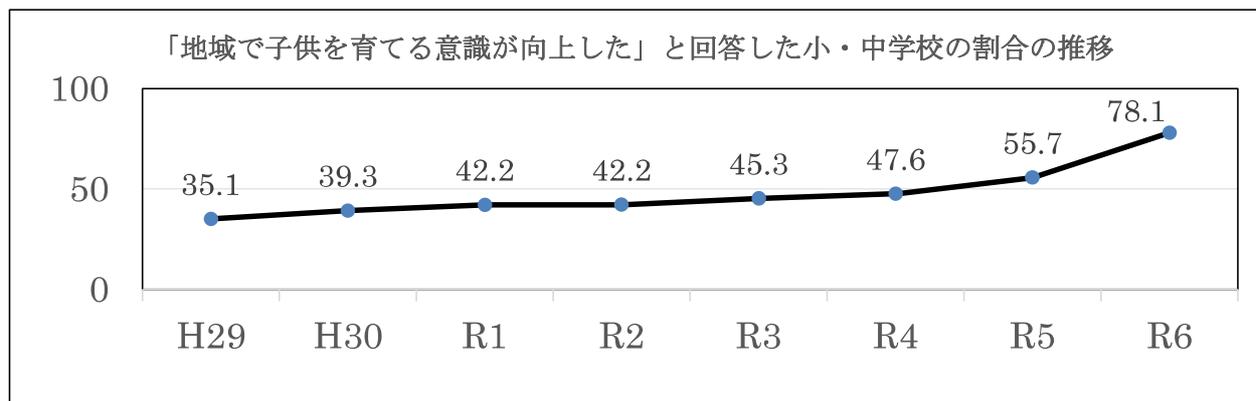
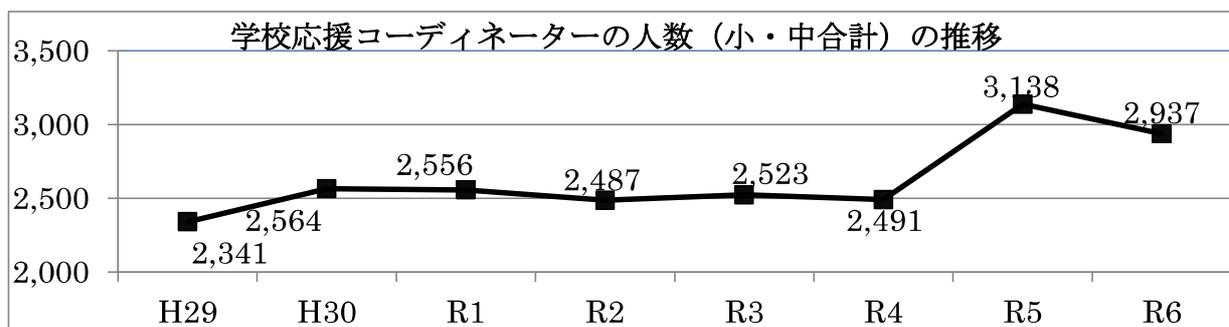
- ・学校応援コーディネーターやボランティアの人材確保（高齢化、世代交代）

### 3 「学校応援団」の組織率の推移

	小学校			中学校		
	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)	応援団が組織されている学校数(校)	組織率(%) 【※】	学校応援コーディネーター人数(人)
平成17年度	7	1				
平成18年度	208	29				
平成19年度	270	38				
平成20年度	456	64	1,274	122	33	348
平成21年度	637	89	1,875	192	52	542
平成22年度	713	99	1,931	276	75	851
平成23年度	713	100	1,995	351	97	876
平成24年度	710	100	1,948	363	100	764
平成25年度	709	100	1,712	362	100	750
平成26年度	708	100	1,754	361	100	814
平成27年度	708	100	1,761	359	100	720
平成28年度	708	100	1,601	355	100	670
平成29年度	708	100	1,699	355	100	642
平成30年度	706	100	1,874	355	100	690
令和元年度	702	100	1,865	354	100	691
令和2年度	698	99.4	1,819	350	98.6	668
令和3年度	692	98.9	1,820	349	98.3	703
令和4年度	693	100	1,788	353	100	703
令和5年度	691	100	2,236	353	100	902
令和6年度	686	100	2,097	351	100	840

※1 中学校には、義務教育学校を含む

※2 「組織率」＝「応援団が組織されている学校数」／「全学校数」



# 令和6年度「学校応援団」の推進に係る調査結果(概要)

令和7年3月31日現在

## 1 「学校応援団」の組織率（※さいたま市を除く）

【県全体】 100% （組織校数1037 / 全校数1037）

【小学校】 100% （組織校数686 / 全校数686）

【中学校】 100% （組織校数351 / 全校数351） ※義務教育学校含む

## 2 「学校応援コーディネーター」の配置人数

【県全体】 2,937人 （1校当たり2.8人）

【小学校】 2,097人 （1校当たり3.0人）

【中学校】 840人 （1校当たり2.4人）

R2	R3	R4	R5	R6
2,487	2,523	2,491	3,138	2,937

## 3 ボランティアの人数

	R2	R3	R4	R5	R6
全県総ボランティア数	126,829	118,576	113,692	106,435	102,454
1校あたりの人数	120	112	109	102	99人

## 4 活動回数（1校あたりの平均）

	R2	R3	R4	R5	R6
小学校	209.5	237.0	242.6	248.0	243.5
中学校	57.4	53.7	60.9	59.2	59.4
小中合計	158.4	175.3	181.3	184.1	181.2

## 5 「学校応援団」の活動に学校運営協議会での協議内容を活かした取組があるか。

	小学校		中学校	
	校数	割合(%)	校数	割合(%)
「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」の協議を経て、「学校応援団」の活動を展開している。	434	63.3%	186	53.0%

## 6 学校応援団などの活動は、教職員の働き方改革につながっているか

	小学校		中学校	
	校数	割合(%)	校数	割合(%)
負担軽減につながっている。	621	90.5%	243	69.2%

## 7 「地域で子供を育てる意識が向上した。」

※埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～（R4～R8）指標項目

第4期埼玉県教育振興基本計画

（R6～R10）指標項目

	R2	R3	R4	R5	R6
小中合計	42.2%	45.3%	47.6%	55.7%	78.1%

# 令和6年度「学校応援団」の推進に係る調査結果

※中学校には、義務教育学校を含みます。

## 1 「学校応援団」の組織状況

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」（学校を支援する組織）が組織されており、学校と「学校応援団」との調整役がいる。	686	100.0%	351	100.0%
学校を支援する組織はあるが、学校と組織との調整役がない。	0	0.0%	0	0.0%
学校の教育活動の支援を行う組織がなく、調整役もない。	0	0.0%	0	0.0%

## 2 「学校応援コーディネーター」の人数

選択肢	小回答	小平均	中回答	中平均
合計・1校あたりの平均配置人数	2097	3.0	840	2.8

## 3 「学校応援コーディネーター」の担い手

選択肢	小回答(2097)	中回答(840)
現PTA関係者	518	306
元PTA関係者（PTAのOBなど）	270	137
学校評議員・学校運営協議会等関係者	439	231
学校支援グループの関係者（「おやじの会」等の保護者による会やNPO団体等）	157	33
町内会長・区長・自治会長など	246	36
民生委員・児童委員	62	17
学校教育に理解のある地域住民	269	53
退職教職員	29	5
公民館等社会教育施設職員	23	6
商工会議所・青年会議所等の地元団体の関係者	27	2
企業関係者	7	1
行政関係者	11	7
その他	39	6

## 4 ボランティアの募集方法

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校、学年、学級から通知（チラシ・便り・広報紙等含む）	549	80.0%	225	64.1%
既に活動している「ボランティア」が勧誘	504	73.5%	163	46.4%
「学校応援コーディネーター」に依頼	298	43.4%	135	38.5%
ホームページに募集記事等を掲載	158	23.0%	70	19.9%
地域団体等への訪問、電話	59	8.6%	26	7.4%
PTAに説明・依頼	320	46.6%	232	66.1%
入学説明会や保護者会で説明（口頭・PRビデオ等）	238	34.7%	100	28.5%
大学と連携し、大学生に呼びかけ	43	6.3%	23	6.6%
地域の回覧板で周知	189	27.6%	65	18.5%
公民館等の人が集まる施設に募集の案内等を掲示	62	9.0%	30	8.5%
電子メール配信により周知	203	29.6%	104	29.6%
その他	15	2.2%	8	2.3%

## 5 今年度の「学校応援団」の活動実施校数

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学習活動の支援	658	95.9%	166	47.3%
安心・安全確保の支援	640	93.3%	209	59.5%
学校の環境整備の支援	587	85.6%	260	74.1%
部活動・クラブ活動の支援	105	15.3%	85	24.2%
生徒指導の支援	149	21.7%	80	22.8%
環境教育の支援	225	32.8%	107	30.5%
学校ファームの支援	277	40.4%	62	17.7%
その他	16	2.3%	11	3.1%

## 6 今年度の「学校応援団」の活動回数

(複数回答あり)

選択肢	小回答	1校あたり	中回答	1校あたり
学習活動の支援	18457	26.9	2502	7.1
安心・安全確保の支援	117619	171.5	7433	21.1
学校の環境整備の支援	12755	18.6	2687	7.7
部活動・クラブ活動の支援	947	1.4	5375	15.3
生徒指導の支援	10013	14.6	1799	5.1
環境教育の支援	2479	3.6	593	1.7
学校ファームの支援	4763	6.9	446	1.3
その他	1547	2.3	45	0.1

## 7 学校と「学校応援団」が、外部の団体・組織・人材等と連携・協働した活動

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
NPO	54	7.9%	13	3.7%
大学・研究機関等	83	12.1%	25	7.1%
民間教育事業者	42	6.1%	15	4.3%
文化団体・サークル等	182	26.5%	33	9.4%
スポーツ関係団体（プロスポーツチームとの連携・協働含む）	94	13.7%	25	7.1%
商店・企業・経済団体	159	23.2%	58	16.5%
農業関係者・団体	221	32.2%	45	12.8%
社会教育関係団体	163	23.8%	64	18.2%
福祉関係団体	212	30.9%	70	19.9%
行政関係機関	184	26.8%	77	21.9%
警察・消防	225	32.8%	71	20.2%
放課後子供教室関係者	222	32.4%	5	1.4%
土曜日の教育支援関係者	30	4.4%	4	1.1%
中学生学力アップ教室関係者	1	0.1%	24	6.8%
近隣の保育園・保育所・幼稚園等	182	26.5%	69	19.7%
近隣の小学校・中学校・高等学校	215	31.3%	104	29.6%
自治会、町内会	377	55.0%	153	43.6%
特別なスキルを有した地域人材	258	37.6%	73	20.8%
外部の団体・組織・人材等との連携・協働は行っていない。	91	13.3%	97	27.6%

## 8 いじめの未然防止のための取組について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
学校応援団に係る会議、学校運営協議会等で、参加していただいている地域の人に学校への情報提供の協力を依頼	436	63.6%	224	63.8%
「いじめ防止対策推進法」に基づいて作成した「いじめ防止基本方針」の中に、学校応援団による協力などについて記載	160	23.3%	59	16.8%
学校応援団の活動を行う際（登下校の見守り、授業支援等）に、参加していただいている地域の人に学校への情報提供の協力を依頼	393	57.3%	134	38.2%
特に実施していない。	101	14.7%	80	22.8%

## 9 「学校応援団」に対して、学校から感謝の気持ちを伝える機会について

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「感謝の会」を開くなど、感謝の気持ちを伝える場を設定	450	65.6%	36	10.3%
感謝の気持ちを表した手紙等を贈呈	466	67.9%	58	16.5%
感謝の気持ちを伝えるため、支援していただいている方の自宅や施設等を訪問	37	5.4%	10	2.8%
給食を準備し、児童生徒と一緒に食べる場を設定	54	7.9%	10	2.8%
学校だよりやホームページでお礼を掲載	474	69.1%	208	59.3%
管理職や担当の職員から謝辞を伝えているが、それ以外に、改めて感謝の気持ちを伝える機会等を設けていない。	78	11.4%	171	48.7%
その他	6	0.9%	3	0.9%

## 10 コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を活かした取組について

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」の協議を経て、「学校応援団」の活動を展開している。	434	63.3%	186	53.0%
「コミュニティ・スクール(学校運営協議会)」と関連して活動を行っていない。	252	36.7%	165	47.0%

## 11 「地域連携」を担当する教職員の校内分掌への位置付け

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
位置づけている	510	74.3%	272	77.5%
位置づけていない	176	25.7%	79	22.5%

## 12 学校応援団などの活動は、教職員の働き方改革につながっているか

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
負担軽減につながっている	621	90.5%	243	69.2%
負担軽減につながっていない	65	9.5%	108	30.8%

13 働き方改革を推進するために、どのような活動を地域の方に協力をしていただきたいか。

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
授業での学習支援	405	59.0%	75	21.4%
登下校の見守り	578	84.3%	188	53.6%
朝の見守り（児童生徒の登校から始業前まで）	378	55.1%	92	26.2%
休み時間の見守り	178	25.9%	28	8.0%
環境整備（樹木の剪定、花壇整備、校舎内の修繕 等）	550	80.2%	290	82.6%
プリントの印刷	148	21.6%	57	16.2%
プリントの丸付け	110	16.0%	35	10.0%
清掃指導の支援	263	38.3%	60	17.1%
給食指導の支援	145	21.1%	25	7.1%
ICT関係での支援（プログラミング教育などの授業支援、ホームページの更新 等）	249	36.3%	90	25.6%
学校行事の支援	456	66.5%	235	67.0%
授業以外での学習支援（休み時間、放課後、長期休業中 等）	188	27.4%	89	25.4%
地域安全活動（見回り、安全パトロール 等）	527	76.8%	243	69.2%
その他	15	2.2%	10	2.8%

14 「地域人材」を活用した活動の結果という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
専門的な学習につながった。	334	48.7%	92	26.2%
子供の学習意欲が向上した。	449	65.5%	91	25.9%
子供の学力や体力が向上した。	106	15.5%	28	8.0%
子供のコミュニケーション能力が向上した。	244	35.6%	77	21.9%
子供の多様な体験や経験が増加した。	526	76.7%	171	48.7%
子供の地域への愛着・理解・関心が深まった。	385	56.1%	148	42.2%
子供と地域住民のつながりが強まった。	472	68.8%	199	56.7%
子供の安心・安全が確保できた。	594	86.6%	183	52.1%
不登校やいじめなど生徒指導上の課題が減少した。	66	9.6%	10	2.8%
学校や教員の負担が軽減された。	511	74.5%	197	56.1%
教員が授業や生徒指導などにより力を注ぐことができた。	212	30.9%	55	15.7%
「地域人材」を授業等で活用する「よさ」について、教員の理解が深まった。	283	41.3%	78	22.2%
専門的な知識や技能が授業に活用されることにより、授業の質が向上した。	227	33.1%	40	11.4%
その他	3	0.4%	2	0.6%

15 学校と家庭・地域との連携という視点から「成果」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
地域で子供を育てる意識が向上した。 (教育への理解の深まり、地域から活動の提案がある、地域の方が主体的に活動に参加している 等)	547	79.7%	263	74.9%
保護者や地域の方が来校することにより、学校と家庭・地域との連帯感が強まった。	539	78.6%	257	73.2%
学校の教育活動への支援を通じ、保護者や地域の方の学校に対する理解や信頼が深まった。	540	78.7%	247	70.4%
子供を地域ぐるみで育てるといった教職員の意識が高まった。	336	49.0%	118	33.6%
保護者や地域の方の「生きがい」や「やりがい」などにつながった。	393	57.3%	108	30.8%
子供が地域の行事に積極的に参加するようになった。	169	24.6%	98	27.9%
地域コミュニティが活性化した。 (子供と地域住民のつながりの深まり、地域行事の活性化 等)	168	24.5%	88	25.1%
その他	7	1.0%	0	0.0%

16 「学校応援団」の活動について「課題」として考えられること

(複数回答あり)

選択肢	小回答	小割合	中回答	中割合
「学校応援団」運営のための予算確保	220	32.1%	137	39.0%
「学校応援団」が使用する専用の場所の確保	187	27.3%	77	21.9%
学校応援コーディネーターとして依頼できる人材確保（高齢化、世代交代）	547	79.7%	233	66.4%
学校応援コーディネーターの力量や意欲を高めること	132	19.2%	71	20.2%
ボランティアを集めること（高齢化、世代交代）	539	78.6%	196	55.8%
学校応援コーディネーターやボランティアとの打ち合わせや調整時間の確保	396	57.7%	173	49.3%
学校経営方針への位置づけ	43	6.3%	26	7.4%
企画・運営委員会や職員会議等での検討（分掌上の位置付けや活動ルールの作成）	90	13.1%	56	16.0%
「学校応援団」に支援していただく内容を明確にすること	212	30.9%	123	35.0%
「学校応援団」の活動内容を充実させること	252	36.7%	138	39.3%
「学校応援団」の活動と感染症対策のバランス（人を集めること、活動の在り方等）	52	7.6%	25	7.1%
参考事例となる情報やノウハウ・ツールの不足	62	9.0%	47	13.4%
教職員の理解や協力を得ること	124	18.1%	100	28.5%
P T Aや保護者の理解や協力を得ること	224	32.7%	124	35.3%
地域の方の理解や協力を得ること	247	36.0%	122	34.8%
課題として考えられることはない	7	1.0%	10	2.8%
その他	3	0.4%	0	0.0%